

令和5年度南部地区道徳教育研究協議会の概要

令和5年度は、第1日は参集型で行い、第2日はオンライン会議を行いました。概要と、指導者による指導内容の概要を掲載させていただきます。

【第1日 研究協議題】

『特別の教科 道徳』の趣旨を踏まえ、『考え、議論する道徳』の授業を充実させるために、どのような工夫改善を図ることができるか。また、学習活動に着目した評価を行うに当たって、どのような工夫ができるか。

○ 日 程

10月10日（火）上尾市立芝川小学校・大谷中学校にて授業公開をもとにした研究協議

○ 部 会

小学校…「自我関与」「問題解決A」「体験的A」の3部会

中学校…「問題解決B」「体験的B」の2部会

- ・【自我関与部会】
「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」を学習活動の中心に据えた授業
- ・【問題解決部会A・B】小学校はA、中学校はB
「問題解決的な学習」を学習活動の中心に据えた授業
- ・【体験的部会A・B】小学校はA、中学校はB
「道徳的行為に関する体験的な学習」を学習の中心に据えた授業

○ 授業の概要

部会名	クラス	内容項目	教材名・出典
自我関与	4年2組	D 自然愛護	流れて行く先 「未来に生きる」埼玉県教育委員会
問題解決A	6年2組	D 友情、信頼	離れていても 「未来に生きる」埼玉県教育委員会
体験的A	1年2組	A 善悪の判断、自律、自由と責任	あさがおのかんさつで 「未来に生きる」埼玉県教育委員会
問題解決B	2年1組	C よりよい学校生活、集団生活の充実	コロナ禍で気付いたこと 「未来に生きる」埼玉県教育委員会
体験的B	1年1組	C 社会参画、公共の精神	すべての人に読書の楽しさを 「未来に生きる」埼玉県教育委員会

- ・「自我関与部会」の授業では、自我関与する登場人物を絞り、登場人物になりきって、登場人物の判断や心情を、児童生徒が自分との関わりで共感的に考えていた。
- ・「体験的部会」の授業では、役割演技を取り入れ、実感したことから、道徳的行為のよさや難しさを、児童生徒が多面的・多角的に考えていた。
- ・「問題解決部会」の授業では、問題解決したい内容を明確にし、児童生徒同士の話し合いを充実させることで、解決策を考えていた。

《指導者の指導の概要（抜粋）》

【道徳科の目標について】

- ・ 目標…①道徳的諸価値の理解、②自己を見つめる、③多面的・多角的に考える、
④自己の生き方について考える、⑤判断力、心情、実践意欲と態度を育てる
(小学校学習指導要領解説P16、中学校学習指導要領解説P13)
- ・ 児童生徒の発達の段階を理解し、道徳性を養う。
(小学校学習指導要領解説P26、中学校学習指導要領解説P24に一覧表)

【道徳的諸価値の理解について】

- ・ 条件・状況を大型テレビや掲示物、板書などで可視化することで、道徳的価値を意識して読み聞かせを聞くことができる。
- ・ まずは教師が道徳的諸価値の理解を深めた上で、児童生徒が道徳的諸価値の理解を深めるために、確固たる意図をもって手立てを講じる。
- ・ 価値理解だけでなく、人間理解、他者理解ができるような揺さぶりの発問をすることで、よりよく生きる上で大切だと知っていながら、なかなか実行することができない人間の弱さや、人によって多様な背景をもち、多様な考えがあることについて意識することができる。

【自己を見つめることについて】

- ・ 道徳ノートを活用においては、1教材あたり1ページで書いていくことで、自分の考えを蓄積することができる。
- ・ 本時に考える道徳的価値にかかわる事前アンケートを行い、ICTを活用するなどして、結果を表やグラフで示すことで、自分たちのことについて問題意識をもつことができる。

【多面的・多角的に考えることについて】

- ・ コの字、Vの字、Uの字など、適切な机配置を取り入れることで、児童生徒が進んで話し合うことができる。
- ・ 話す子供を育てる前に、聴く子供を育てることで、話し合う集団に育てていくことができる。
- ・ 児童生徒が自分の考えを発表することだけでなく、学級全体の考えが出尽くしたところで、さらに、出た考えについて深める話し合いをすることで、多面的・多角的に考えることができる。

【自己の生き方について考えることについて】

- ・ 頭で分かる観念的な共通解で終わるのではなく、実感を伴った理解ができるような動作化や役割演技を取り入れ、心から納得できる納得解をもつことで、自己の生き方の考えを深めることができる。
- ・ 児童生徒は発言したことについて、状況に応じて、さらに「なぜ？ どうして？」と問うことで、児童生徒の考えを深めることができる。

【道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることについて】

- ・ 本時に考えた道徳的価値と関わらせ、過去、現在、未来の自分の生き方について考えて、振り返りを書くことで、本時の学びを自覚することができる。
- ・ 児童生徒の日常生活の様子から、道徳性に係る成長の様子について積極的に伝えていくことで、児童生徒自らの成長を実感し、自らの道徳性を育む意欲の向上につなげることができる。

【その他】

- ・ICTは、道徳科の目標を達成するために活用することを意識する。

【研究協議題:第2日】

『特別の教科 道徳』を含む新学習指導要領の趣旨を踏まえ、自校の道徳教育の一層の充実を図るためには、教育活動全体を通じた意図的、計画的な指導、全教職員の協力体制の確立、家庭・地域社会との連携が重要である。道徳教育推進教師として、どのような役割を担い、工夫改善すればよいか。また、道徳教育を通じて「規律ある態度」を身に付けるためには、どのような工夫ができるか。

- ・道徳教育推進モデル校の実践発表では、学校全体で具体的な取り組みを実践しており、成果や課題を明らかにしていた。
- ・道徳教育推進教師としての役割や、道徳教育全体計画、別葉の活用方法などについて意見を交流を行うことができた。

○ 日 程

11月16日（木） オンライン研究協議

○ 内 容

- ・道徳教育推進モデル校 実践発表（朝霞市立朝霞第五中学校・北本市立西小学校）
- ・講義「道徳教育推進教師の役割と道徳教育推進体制の確立」
講師 県立総合教育センター 小久保 理恵 指導主事
- ・グループ協議（小学校部会 15 グループ、中学校部会 10 グループ）

《講義の概要（抜粋）》

【教育活動全体で行う道徳教育】

- ・各教科等の授業で、学級経営で、学校行事で、給食、清掃、朝・帰りの会などで、規律ある態度・生活目標など、あらゆる場面で子供たちの心を育てる。

【重点目標の明確化】

- ・どのような子どもを育てたいのか、目標に向かってどのような内容を重点的に指導するのかを明らかにする。
- ・意図的な指導であることが大切である。

【道徳科におけるICTの活用】

- ・（例）①導入で問題意識をもたせるための活用（アンケート結果など）
②話し合いの場面での活用（思考ツール、ポジショニングなど）
③自己を見つめる場面での活用（ノートの写真を撮るなど）

【道徳教育推進教師の役割】

- ① 指導計画の作成（全体計画、別葉、年間指導計画）
- ② 全教育活動における道徳教育の推進、充実（学校行事、体験活動、各教科等とのつながり）
- ③ 道徳科の充実と指導体制に関すること（研修計画、授業の進め方モデル）
- ④ 道徳用教材の整備、充実、活用（場面絵、ワークシート等の整理、ねらいと発問を残す）
- ⑤ 道徳教育の情報提供や情報交換（道徳通信、サイトの紹介）
- ⑥ 家庭・地域社会との連携（授業公開、ゲストティーチャー、学校HP）

- ⑦ 道徳教育の研修の充実（理論研修、校内授業研究、文部科学省や総合教育センターの資料の活用）
- ⑧ 道徳教育における評価（教師の指導方法の改善・充実、児童生徒が自らの成長を実感）

【道徳教育推進教師がもちたい機能的役割】

- ① プロモーター（推進者）
- ② コーディネーター（調整役）
- ③ アドバイザー（助言者）